

プライベートインタビュー

倍賞千恵子さんの

横顔

いつもアンテナを張って
人に興味を持って、人に会う

笹かまぼこが好き

一仙台・宮城の印象は？

仙台には昔から何度も来ていて、緑の街というイメージ。さとう宗幸さんの歌の通りだと思いますね。今回は今年4月に訪れて以来の仙台。こんなに緑がある仙台は久しぶり。定禅寺通を通過、とても気持ち良かったですね。震災直後の仙台・宮城の大変なところを実際に見ているので、随分豊かになったとも感じました。

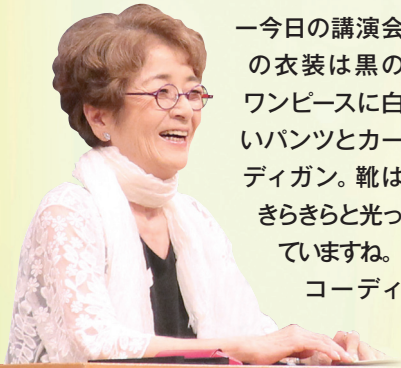
一仙台・宮城に来たら食べたいものはありますか？

笹かまぼこですね。家でも頂きますよ。そのまま食べるのが好き。わさびだけ付けて、お酒のつまみにもいいですよ。今日は友達から頼まれているので、買って帰らないと(笑)。

一どういったお酒が好きですか？

焼酎、ウイスキーは駄目ですけど、日本酒やワインは毎日ちょこっと頂きますね。私は飲まない日もありますが、主人は毎日飲みます。わりと好きなのは辛口の日本酒ね。

若い世代の服を着こなす



一今日の講演会の衣装は黒のワンピースに白いパンツとカーディガン。靴はきらきらと光っていますね。
コーデ

講演後に楽屋を訪ね、仙台や宮城の印象、若さや元気の秘訣(ひけつ)などをインタビュー。テレビやステージでは分からない、倍賞さんの素顔に迫った。

ネットのポイントを教えてください。

自分で洋服を選ぶ時はあまり派手にならないように、でもある程度華がある衣装を選ぶようにしています。

一プライベートではどのようなファッションが多いですか？

カジュアルなものが好きですね。ジーンズもはきますよ。年々楽なスタイルになっていって、体も楽になっていって(笑)。ただ、年齢相応の店では買わないようにしていますね。自分の年齢より20歳~30歳くらい若い人向けの店で買っています。年齢にとらわれず、スタイルを固定しないで、自分が着たいものをいろいろと試してみたいかでしょう。

一地方での仕事など忙しい毎日、元気で続けるために心掛けていることはありますか？

「ながら族」。何かをやりながらを実践しています。歯を磨きながらスクワット、テレビを見ながら腹筋…とか。時間を有効に使いたいと思っています。お料理では食材も有効に使うようにね。ダイコンやニンジンの皮は捨てずに、きんぴらにしちゃうの。主人もよく食べてくれますよ。

一最後に、シニア世代が多い読者に、生き生きとした人生を送るためのアドバイスをお願いします。

いろいろな人に興味を持って、いろいろな人と接する。自分の殻に閉じこもらずに、たくさんの人に会うことがいいんじゃないかな。でも時々整理しないとね(笑)。自分がアンテナをちゃんと張っていれば、そういう人と出会えると思っています。

女優 倍賞千恵子さん 講演会

27年間続いた作品

映画「男はつらいよ」は27年間で48作。渥美清さんの突然の死で、終わってしまいました。今年も映画が一瞬で分かりました。



抑揚のある話し方で観客を魅了した

渥美さんが亡くなって20年。早いですね。ビデオ屋さんで1作目と最後の作品を借りて続けて見ると、どれほど長く続いた

出演者の顔のしわが増えています(笑)。

映画では渥美さんと血のつながった兄妹役を演

じました。お芝居を教えてもらった記憶は一切ありませんが、人間として生きる姿勢を学ばせていただきました。

渥美さんはゲスト俳優がスタジオリイしやすいように、楽屋まで迎えに行くことが多くありました。それは、渥美さんの体力が相当きつかっただろう、最後の方にも続けていました。大きな愛と思

いやりを持った方だから、できたのだと思います。映画の中の寅さんは、よく怒ってけんかをしていました。でも、撮影の休憩中は渥美さんが怒っている記憶はありません。渥美さんは勉強家で、私にとっては人間として、

山田洋次監督は「渥美さんみたくにぜい肉の少ない俳優さんはいない」とおっしゃるんです。太っている、痩せているという意味じゃない。カメラの前に立ったとき、自分に不安がある俳優は余計なお芝居をしてしまう。それが一番少ないのが渥美さん。尊敬する、学んでいきたい部分です。

兄のような俳優に

俳優としての先生。たくさん本を読み、たくさん映画や舞台を見ている方でした。渥美さんのお別れ会には雨の中、たくさんの方々がいらして列が続いていました。渥美さんの死によって、私は「この仕事は、こんなにたくさんの人に愛されていた」と思い知らされました。

私が仕事でつらかったとき、渥美さんは必ずおいしいものを食べに連れていってくれるんです。渥美さんは映画の中のお兄ちゃんでした。27年間兄妹のお芝居をして、倍賞千恵子の兄貴にもなっていました。渥美さんに男はつらいよと、実際の田所さん(本名)という家族があつたよつに、私にとつてもさくらのお兄ちゃん、倍賞千恵子のお兄ちゃんでした。とてもすてきな人です。でも、



講演後、ファンから花束を受け取る倍賞さん

その兄貴はもういません。この映画は今、若い世代が違う視点で見直してくれています。日本人独特の情や礼儀などが隠されている。さくらの衣装もその一つ。映画の中に時代の流れを感じながら見る方が、たくさん出てきているそうです。

私も渥美さんのように、ぜい肉の少ない俳優さんになりたい、進化していきたいと思っています。そして役者という仕事を続けていきたいですね。